

## 郷土館発 徳川家康との関わり

今年のNHK大河ドラマは、愛知から輩出した戦国三英傑の一人、徳川家康を題材に「どうする家康」が一月から放映されています。今回は本館での家康関連の取組や、戦国期における当地域と家康との関わり的一端について紹介します。

取組の第一点目として、**岡崎大河ドラマ館と奥三河郷土館の「入館料相互割引」**を一月二十一日(土)〜翌年一月八日(祝)までの一年間実施しています。

具体的には、奥三河郷土館の入館券の半券を大河ドラマ館で提示すれば、入館料が二割引で購入でき、また大河ドラマ館の半券を持参すれば、本館の入館料が二割引となります。

◇岡崎大河ドラマ館

三河武士のやかた家康館

◇入館料 大人・八〇〇円

小人・四〇〇円

二点目は、家康公生誕地の岡崎城はじめ個性豊かな武将ゆかりの地「武将のふるさと愛知」(県内五エリア)を巡る「**あいち家康戦国絵巻ラリー**」が開催され、町内は本館はじめ田峯城、福田寺(信玄塚)、津具金山の四箇所にスタンプ(QRコード)が設置され、抽選で賞品が当たります。

◇期間 一月二十一日(土)〜

三月二十一日(祝)

次は**家康との関わり**です。本町は長篠の戦いや三方原の戦いなど、家康との直接的な史跡はありませんので、宗家田峯菅沼氏を中心に、「北設楽郡史」の記述内容を要約して記します。

◇徳川氏の配下

田峯菅沼四代の菅沼定継は、歴代の定忠、定広とともに今川氏の旗下にあつたが、今川氏親没後の享祿二年(一五二九)、松平清康(家康の祖父)に降つた。

◇家康による遺領安堵

弘治二年(一五五六)五月の布里合戦は、血肉を分けた兄弟でありながら、一族が今川・織田に分かれ戦つたが、定継は同年八月に自刃した。遺子小法師(後の五代定忠)は幼かつたので、叔父の定直に育てられ、永祿四年(一五六二)五月十五日、家康より「遺領安堵の書」を賜つた。

◇武田氏へ属す

定忠は、元龜二年(一五七二)四月、信玄の將秋山信友の東三河侵攻により、家康への恩義を無視し武田氏に従い、翌年十二月の三方原の戦いに力戦した。

◇長篠・設楽原の戦いへ出陣

定忠は、天正三年(一五七五)五月の長篠・設楽原の戦いに、田峯城に叔父定直、家老今泉道善らを残し、山家三方衆として唯一武田方として家老城所道寿はじめ手兵約五百を率いて出陣

し、織田・徳川連合軍と戦つたが大敗を喫し、武田勝頼とともに、田峯城に入城しようとしたが留守居役の定直らの謀反により城に入れず、段戸を越え武節城へ逃れ、勝頼は甲斐に帰つた。

◇田峯城を急襲

天正四年(一五七六)七月十四日、定忠はひそかに田峯城を急襲し、首謀者の定直を討ち、道善ら老若男女九十六人を鋸引きにして遺恨を果たし、信州へ引き上げた。なお、田峯地内には「今泉道善処刑の地」「田峯城内乱の首塚」が町史跡に指定されている。

◇家康への赦免叶わず

天正十年(一五八二)三月十一日、武田勝頼が天目山で織田氏に滅ぼされたため、定忠は家康に帰順を乞うたが許されず、同年十月、伊那郡知久平の地で討たれた。

◇最後の田峯城主

定利は定直の嫡子で、宗家田峯菅沼氏が滅亡すると、家康の命で第六代田峯城主に就いた。

◇名倉奥平氏への感状

名倉奥平氏の信光は、桶狭間の戦い後、松平元康(家康)に降り、永祿十一年(一五六八)十二月二十七日、今川氏真が守る掛川城攻めや、翌年四月に津具白鳥城の後藤善心を攻め陥すなど、数々の戦功により家康から感状を賜つた。

(奥三河郷土館長)

原田 和久